

会長就任挨拶にかえて

— 思い —



(社) ニューガラスフォーラム会長
HOYA 株式会社相談役

山中 衛

Mamoru Yamanaka

今日より振り返って、25～30年ほど過去を思い起こしてみましよう。

ガラス産業の発展の可能性について、板ガラス・電気ガラス・ガラス繊維・光学ガラス・食器ガラス・ビンガラス、特に食器ガラスとビンガラスに至ってはその将来の可能性が見えにくくなっておりまして、実際に毎年少しづつ売り上げが減少するような有様でした。仮に、当時の品揃えをオールドガラスと呼びますと、他素材の出現や景気循環の低迷期にあったのかもしれません。まだ、アジア市場や国際市場への開放も今よりはずっと進んでいませんでした。

海外に目を転じれば、当時、先進的モデルとしてアメリカのコーニング社やドイツのシヨット社は、新しい材質のガラスを開発し、パイレックスの皿板や薄板ガラス電子レンジ用のガラス製パネル等、今までになかった商品を世に出していました。

こうした新技術開発を重視した経営方針は、日本のガラス産業の発展のモデルとしても大いに参考とすべきものでした。

また、旧来のオールドガラスにおいても、後工程に力を入れたり、デバイス化することにより付加価値をあげて有利な市場ポジションをとる方法も考えられました。

私たちの先輩たちは、こうした時期に将来のガラス産業の発展を希求して業界をあげて新しい技術を発展させるために、当時の通産省生活産業局窯業建材課 新村課長様、同局ファインセラミックス室 足立室長様、後に社団法人化の時には、同局窯業建材課 和田課長様のご支援を受け、また、大学の先生方や企業の研究者に参加を呼びかけ、当ニューガラスフォーラムは、1985年7月に任意法人として設立されました。設立発起人は、鈴木HOYA社長、長崎日本電気硝子社長、金井旭硝子専務、島日本板硝子常務の4人でした。次に、2年後の1987年8月には、鈴木HOYA社長、長崎日本電気硝子相談役、古本旭硝子社長、刺賀日本板硝子社長により社団法人化されました。(いづれも当時の役

職名)

メンバーには、硝子工場の片隅で終日研究に没頭して視野が狭くなることを恐れ、原材料関係者、ガラスの製造者、そのユーザー、最終製品メーカーまで幅広く参加を求めました。また、共に語らい将来構想を話し合えるよう、まだ珍しかったForum（公開の広場・公開討論会場）という意味合いを持たせて命名されました。

昔からあったオールドガラスに対し、光ファイバーは既に研究され、実用化されていて、後のファイバートウザホーム構想の実用化がなされ始めておりましたし、フラットパネル用ガラスの実験も磁気ディスク用ガラスの研究もされていたと思います。いろいろな新しいガラスの組成、製造方法や用途の勃興期でもあったと思います。

ニューガラスフォーラムの誕生は、ガラスメーカーを中心に活力とイノベーションへの希望を生み出し、各企業の研究陣にも大きな刺激となったように思いました。

現在ではオールドガラスに対し、最真目に見て、ほぼ同額に近い1兆円弱がニューガラスと考えて良いのではないのでしょうか。先輩たちの先見性に感謝し、「続けることが力」となるようにすることが後を歩む者の務めと肝に銘じたいと思います。

時の経過とともに必要性に先導されて、次の需要として拡大しつつあるのが環境に優しく省エネルギーに貢献できるような機能を持つガラスやその製造方法、用途開発でしょう。

新しい課題に対しても成果があがることが期待されます。